

令和4年5月25日
 総合企画部報道広報課
 043-223-2247

令和3年度 第62回県政に関する世論調査の結果について

県では、県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とするため世論調査を実施しており、このたび、昨年度に行った第62回調査の結果をとりまとめました。

〈調査結果のポイント〉

県民のニーズの優先度を調査する「県政への要望」については、以下のとおりでした。

- 上位3項目は、1位「災害から県民を守る」、2位「高齢者の福祉を充実する」、3位「医療サービス体制を整備する」であり、平成24年度から10年連続で同順位でした。
- 前回から大きく順位を上げた項目は6位「交通事故から県民を守る」（前回10位）であり、7ポイント増加しました。
- 「自然を守り、緑を育てる」は前回から1.8ポイント増加し、平成22年度以来、11年ぶりに10位以内に入りました。

1 調査の設計等

(1) 調査対象 千葉県在住の満18歳以上の個人3,000人

(2) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うもの

(3) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用

（郵送配付－郵送・オンライン回収）

(4) 調査時期 令和3年11月26日～令和3年12月17日

2 回収結果

有効回収数（率） 1,659（55.3%）

3 調査項目

- | | |
|---------------------|-------------------|
| [1] 県政への要望 | [8] 県の農林水産物について |
| [2] 環境と生活 | [9] 都市農業について |
| [3] 健康について | [10] 防災に関する取組について |
| [4] 福祉について | [11] 男女共同参画について |
| [5] 地域リハビリテーションについて | [12] SDGs等について |
| [6] 食育について | [13] 広報について |
| [7] 観光について | |

1 県政への要望

(1) 県政への要望

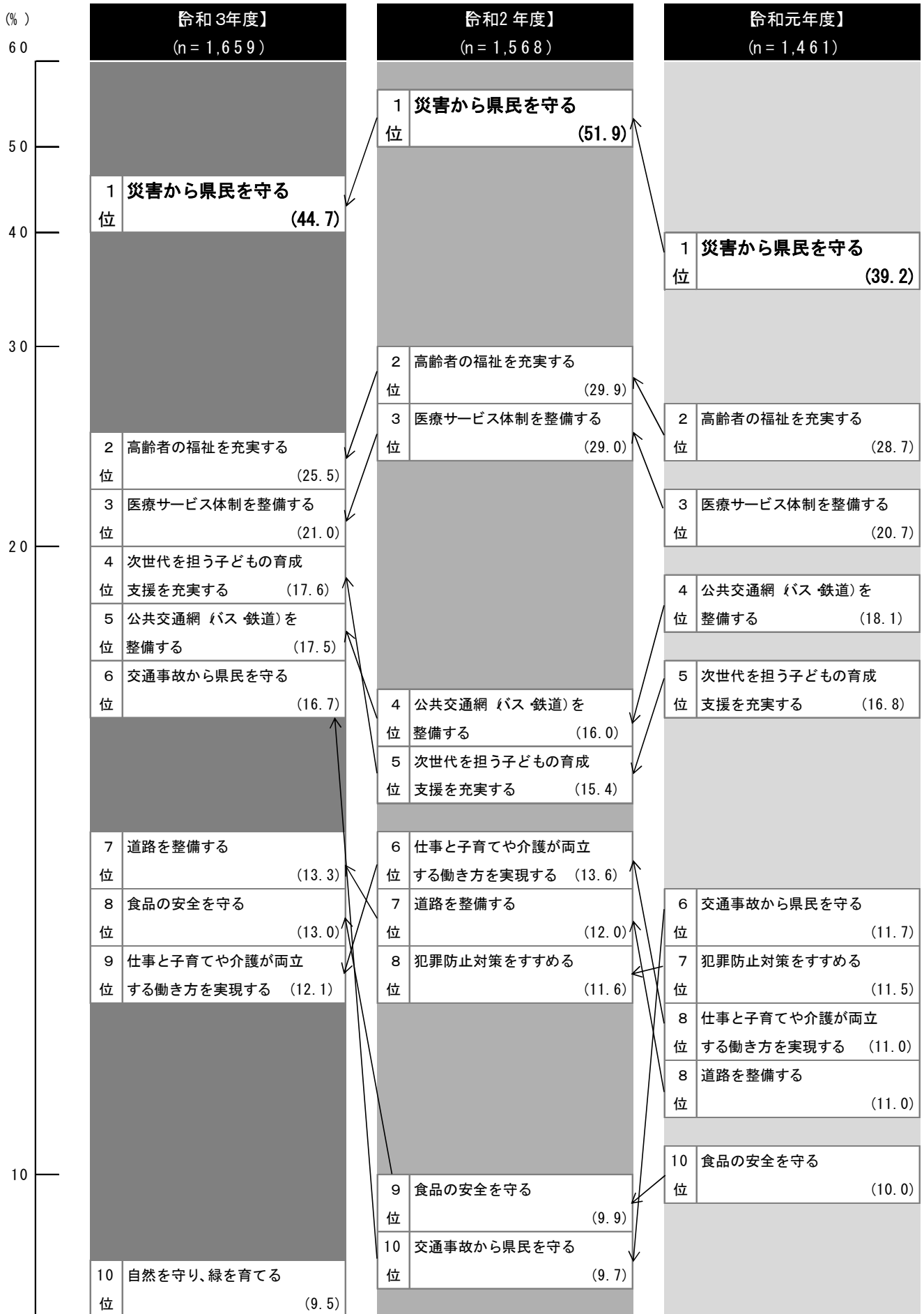
(複数回答:3つまで)

項目	順位	n=1,659						n=1,568		n=1,461	
		0	10	20	30	40	50	60(%)	前回 (令和2年度)	前々回 (令和元年度)	
災害から県民を守る	1位	44.7						1位	51.9	1位	39.2
高齢者の福祉を充実する	2位	25.5						2位	29.9	2位	28.7
医療サービス体制を整備する	3位	21.0						3位	29.0	3位	20.7
次世代を担う子どもの育成支援を充実する	4位	17.6						5位	15.4	5位	16.8
公共交通網(バス・鉄道)を整備する	5位	17.5						4位	16.0	4位	18.1
交通事故から県民を守る	6位	16.7						10位	9.7	6位	11.7
道路を整備する	7位	13.3						7位	12.0	8位	11.0
食品の安全を守る	8位	13.0						9位	9.9	10位	10.0
仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	9位	12.1						6位	13.6	8位	11.0
自然を守り、緑を育てる	10位	9.5						14位	7.7	13位	7.2
犯罪防止対策をすすめる	11位	9.2						8位	11.6	7位	11.5
雇用の場を広げる	12位	7.9						12位	8.3	15位	6.0
障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	13位	7.7						13位	8.1	12位	7.4
大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	14位	6.0						19位	4.7	16位	5.9
ひとり親家庭等の福祉を充実する	15位	5.7						18位	4.9	20位	4.5
安心して飲める良質な水道水を供給する	16位	5.5						19位	4.7	19位	4.7
学校教育を充実する	17位	5.4						11位	8.5	11位	7.9
中心市街地の活性化を推進する	18位	5.3						16位	5.2	21位	4.0
健康づくりをすすめて、病気を予防する	19位	5.2						15位	5.3	17位	5.4
下水道を整備する	20位	5.1						24位	3.2	26位	2.8
循環型社会を推進する	21位	3.9						24位	3.2	22位	3.3
青少年を健全に育てる	22位	3.8						22位	4.2	18位	5.0
消費生活のトラブルに関する対策をすすめる	23位	3.6						16位	5.2	14位	6.8
廃棄物対策をすすめる	24位	3.5						26位	2.9	27位	2.6
農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	24位	3.5						27位	2.8	28位	2.5
公園・緑地を整備する	26位	3.4						21位	4.5	23位	3.0
観光を振興する	27位	3.2						23位	3.8	24位	2.9
商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	28位	2.8						27位	2.8	24位	2.9
芸術・文化活動を振興する	29位	2.4						30位	2.1	30位	2.3
生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する	30位	2.3						29位	2.5	28位	2.5
国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	31位	1.6						33位	1.6	31位	1.6
施策実現や地域活性化のためのICTの利活用をすすめる	31位	1.6						31位	1.9	33位	0.8
男女共同参画を推進する	33位	1.5						32位	1.8	33位	0.8
住宅対策を充実する	34位	1.3						34位	1.4	32位	1.3
地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する	35位	1.0						35位	1.1	35位	0.6
その他		2.1							1.0		1.6
要望はない		1.3							2.0		1.6
無回答		1.0							1.6		2.5

注) 「循環型社会を推進する」は平成元年度では「省資源やリサイクルをすすめる」
「地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する」は平成元年度では「市民活動団体やボランティアへの活動支援を充実する」

- 上位3項目は、1位「災害から県民を守る」(44.7%)、2位「高齢者の福祉を充実する」(25.5%)、3位「医療サービス体制を整備する」(21.0%)であり、平成24年度調査から10年連続で同順位。
- 前回から大きく順位を上げた項目は6位「交通事故から県民を守る」(16.7%)で、前回(9.7%)から7ポイント増加した。
- 「自然を守り、緑を育てる」(9.5%)は前回(7.7%)から1.8ポイント増加し、平成22年度調査以来、11年ぶりに10位以内に入った。

■ 県政への要望／上位10項目の推移

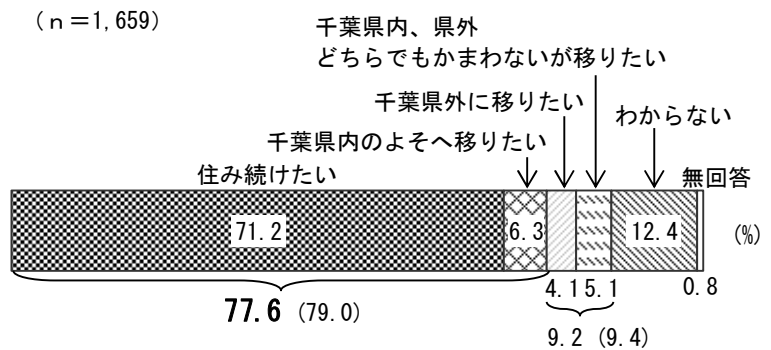


2 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」(71.2%)が7割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」(6.3%)を合わせた『千葉県内に住み続けたい(計)』(77.6%)が約8割となっている。

一方、「千葉県外に移りたい」(4.1%)と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」(5.1%)を合わせた『移りたい(計)』(9.2%)が約1割となっている。

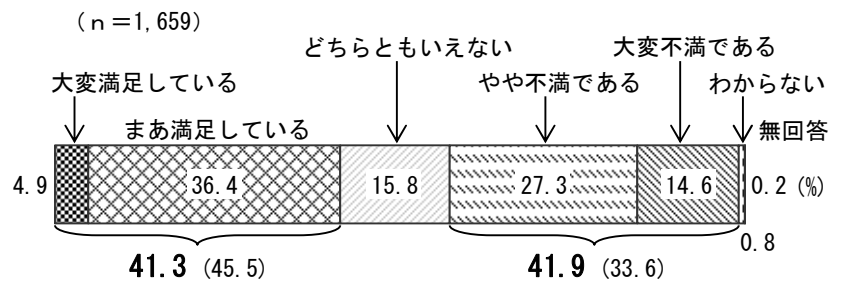


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(2) 道路の整備の満足度

道路の整備について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(4.9%)と「まあ満足している」(36.4%)を合わせた『満足している(計)』(41.3%)が4割を超えている。

一方、「やや不満である」(27.3%)と「大変不満である」(14.6%)を合わせた『不満である(計)』(41.9%)も4割を超えている。

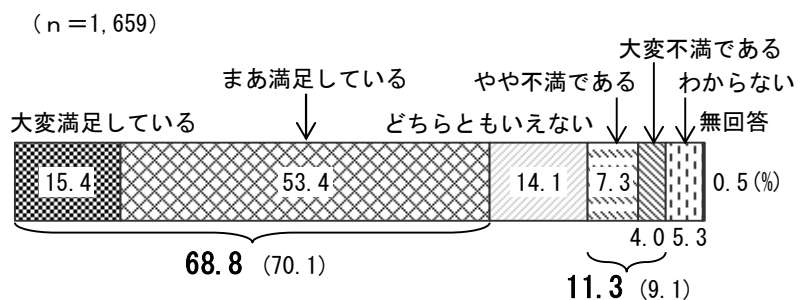


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(3) 上水道の整備の満足度

上水道の整備について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」(15.4%)と「まあ満足している」(53.4%)を合わせた『満足している(計)』(68.8%)が約7割となっている。

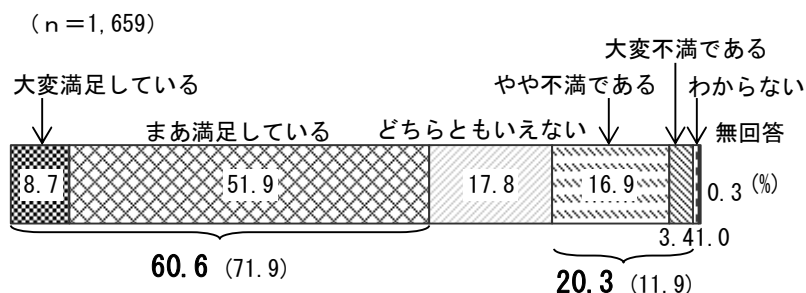
一方、「やや不満である」(7.3%)と「大変不満である」(4.0%)を合わせた『不満である(計)』(11.3%)が1割を超えている。



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(4)住生活全般の満足度

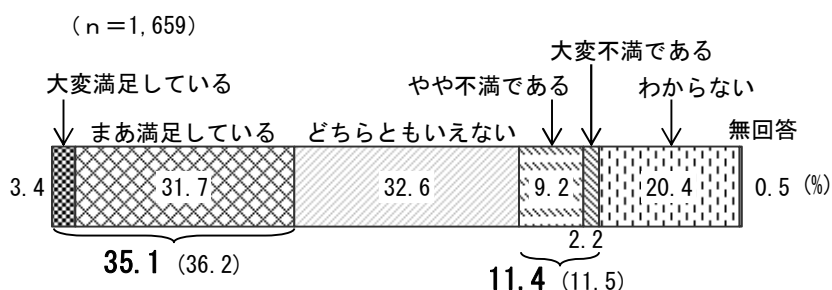
現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（8.7%）と「まあ満足している」（51.9%）を合わせた『満足している（計）』（60.6%）が6割となっている。一方、「やや不満である」（16.9%）と「大変不満である」（3.4%）を合わせた『不満である（計）』（20.3%）が2割となっている。



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(5)消費生活全般の満足度

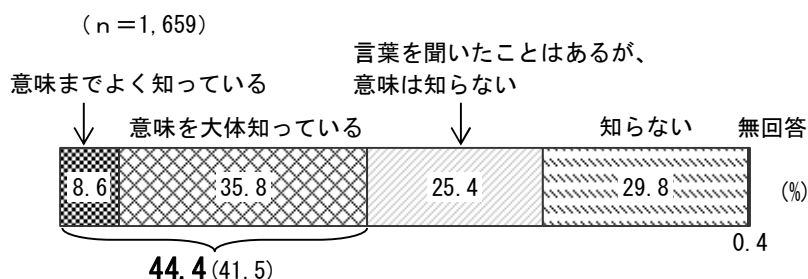
現在の消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（3.4%）と「まあ満足している」（31.7%）を合わせた『満足している（計）』（35.1%）が3割台半ばとなっている。一方、「やや不満である」（9.2%）と「大変不満である」（2.2%）を合わせた『不満である（計）』（11.4%）が1割を超えている。



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(6)「気候変動による影響への適応」の認知度

「気候変動による影響への適応」について、その認知度を聞いたところ、「意味までよく知っている」（8.6%）と「意味を大体知っている」（35.8%）を合わせた『意味を知っている（計）』（44.4%）が4割台半ばとなっている。一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（25.4%）は2割台半ば、「知らない」（29.8%）は約3割となっている。

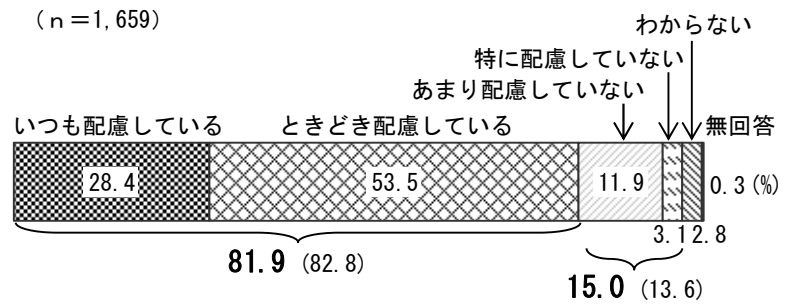


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(7)環境に配慮した行動

日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」(28.4%)と「ときどき配慮している」(53.5%)を合わせた『配慮している(計)』(81.9%)が8割を超えている。

一方、「あまり配慮していない」(11.9%)と「特に配慮していない」(3.1%)を合わせた『配慮していない(計)』(15.0%)が1割台半ばとなっている。

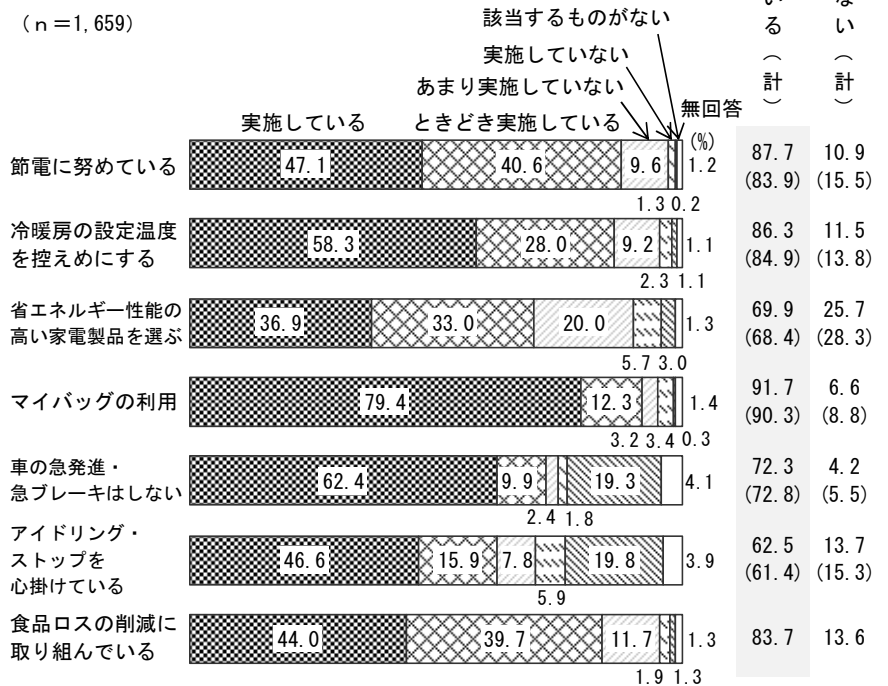


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(8)普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

普段の生活で行っている環境保全の取組に関する7つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している(計)』が最も高いのは、「マイバッグの利用」(91.7%)で9割を超え、以下、「節電に努めている」(87.7%)が約9割、「冷暖房の設定温度を控えめにする」(86.3%)と「食品ロスの削減に取り組んでいる」(83.7%)が8割台半ばで続く。

一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない(計)』が最も高いのは、「省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(25.7%)で2割台半ばとなっており、以下、「アイドリング・ストップを心掛けている」(13.7%)と「食品ロスの削減に取り組んでいる」(13.6%)が1割台半ばで続く。

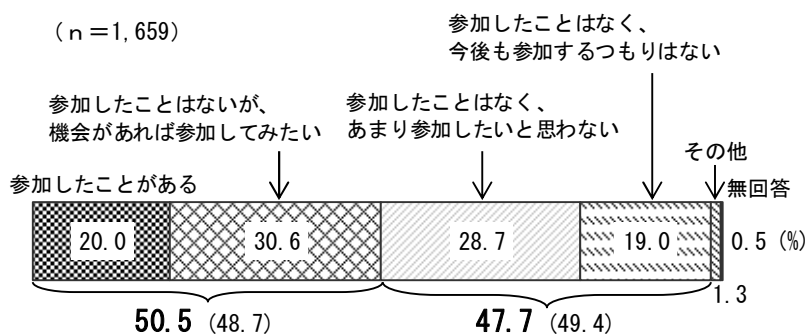


注) 下段の () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(9)環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」(20.0%)が2割となっており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」(30.6%)を合わせた『参加意向あり(計)』(50.5%)が5割となっている。

一方、「参加したことはないが、あまり参加したいと思わない」(28.7%)と「参加したことはないが、今後も参加するつもりはない」(19.0%)を合わせた『参加意向なし(計)』(47.7%)が約5割となっている。

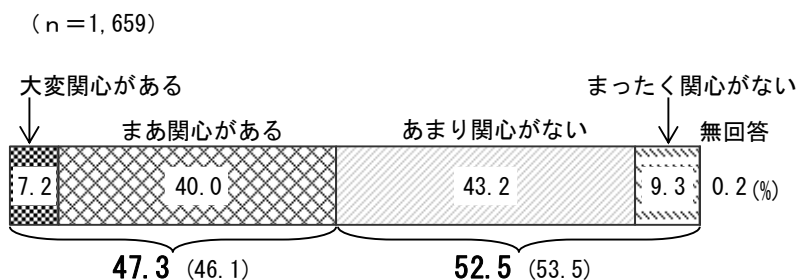


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(10)市民活動団体やボランティア活動の関心度

市民活動団体の活動や、ボランティア活動の関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(7.2%)と「まあ関心がある」(40.0%)を合わせた『関心がある(計)』(47.3%)が約5割となっている。

一方、「あまり関心がない」(43.2%)と「まったく関心がない」(9.3%)を合わせた『関心がない(計)』(52.5%)が5割を超えている。

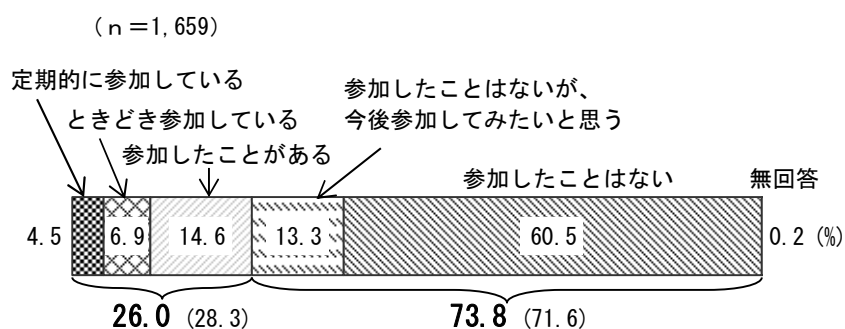


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(11) 市民活動団体の活動への参加経験

市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」(4.5%)、「ときどき参加している」(6.9%)、「参加したことがある」(14.6%)の3つを合わせた『参加したことがある(計)』(26.0%)が2割台半ばとなっている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」(13.3%)と「参加したことはない」(60.5%)を合わせた『参加したことはない(計)』(73.8%)が7割台半ばとなっている。

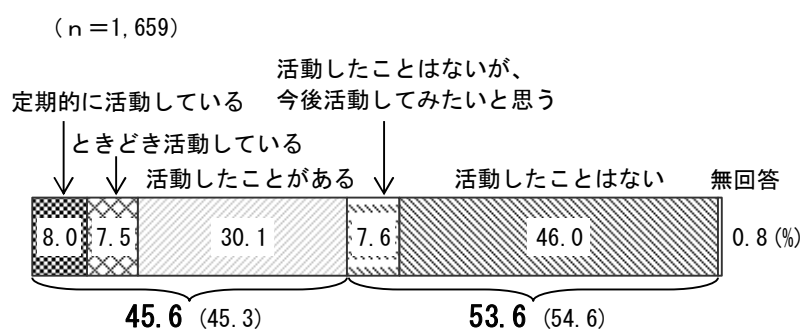


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(12) ボランティア活動経験

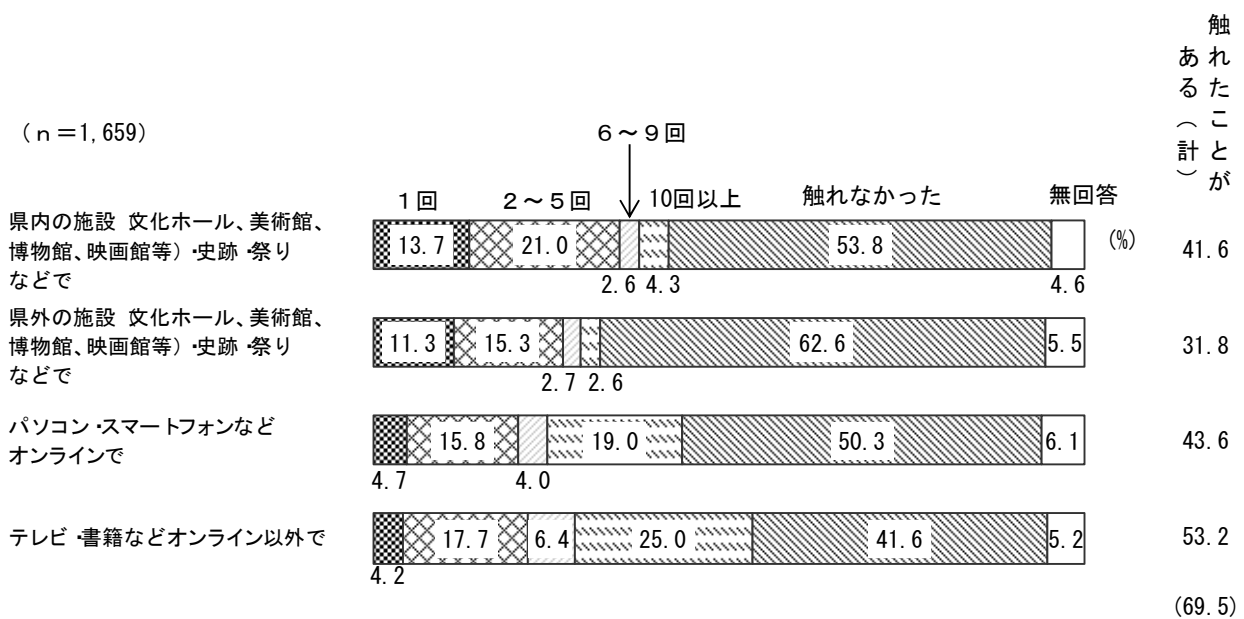
ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に活動している」(8.0%)、「ときどき活動している」(7.5%)、「活動したことがある」(30.1%)の3つを合わせた『活動したことがある(計)』(45.6%)が4割台半ばとなっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」(7.6%)と「活動したことはない」(46.0%)を合わせた『活動したことはない(計)』(53.6%)が5割台半ばとなっている。



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(13)この1年間で文化芸術に触れた頻度



(※) 今回の調査では、触れた頻度と場所を聞く設問を統合し、「(どこで・どの手段で)、何回くらい」として触れた回数は上記の各4ヶ所について聞いている。

「触れる」の説明を加筆した。

注) 下段の()書きは、場所を特定しない触れた頻度の令和2年度の調査結果を示している。

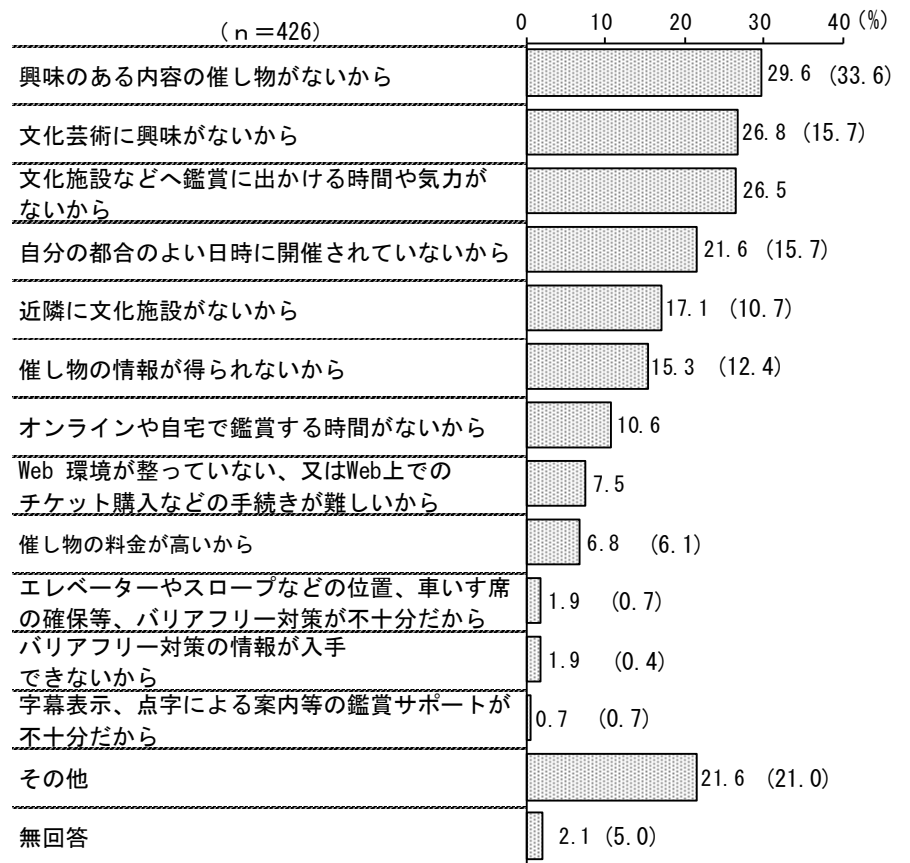
この1年間で何回くらい文化芸術に触れたか聞いたところ、「年に1回」、「年に2～5回(3～6か月に1回程度)」、「年に6～9回(1～2か月に1回程度)」、「年に10回以上(おおよそ月に1回以上)」の4つを合わせた『触れたことがある(計)』が最も高いのは、「テレビ・書籍などオンライン以外で」(53.2%)で5割を超え、以下、「パソコン・スマートフォンなどオンラインで」(43.6%)が4割台半ば、「県内の施設・史跡・祭りなどで」(41.6%)が4割を超えて続く。

一方、「文化芸術に触れなかった」が最も高いのは、「県外の施設・史跡・祭りなどで」(62.6%)で6割を超え、以下、「県内の施設・史跡・祭りなどで」(53.8%)が5割台半ば、「パソコン・スマートフォンなどオンラインで」(50.3%)が5割と続く。

(13-1)文化芸術に触れなかった理由

(複数回答:いくつでも)

「文化芸術に触れなかった」と回答した426人を対象に、文化芸術に触れなかった理由を聞いたところ、「興味のある内容の催し物がないから」(29.6%)が約3割で最も高く、以下、「文化芸術に興味がないから」(26.8%)、文化施設などへ鑑賞に出かける時間や気力がないから」(26.5%)、「自分の都合のよい日時に開催されていないから」(21.6%)が続く。



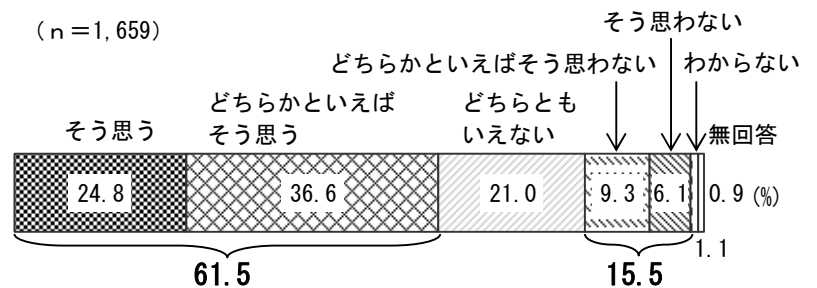
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

3 健康について

(1)健康づくりへの取組状況

積極的に健康づくりに取り組んでいるか聞いたところ、「そう思う」(24.8%)と「どちらかといえばそう思う」(36.6%)を合わせた『そう思う(計)』(61.5%)が6割を超えている。

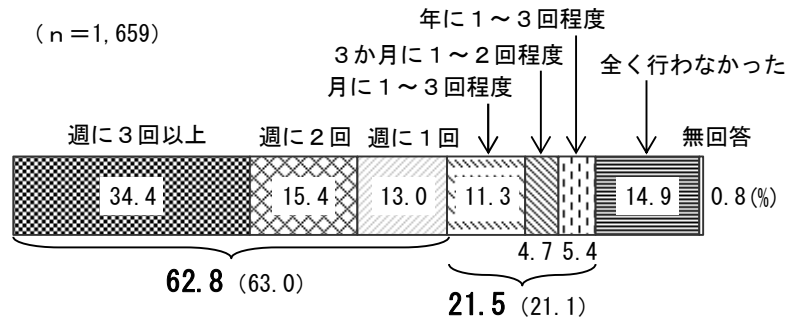
一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.3%)と「そう思わない」(6.1%)を合わせた『そう思わない(計)』(15.5%)が1割台半ばとなっている。



(2)1年間に行った運動の程度

この1年間にどの程度運動やスポーツを行ったか聞いたところ、「週に3回以上」(34.4%)、「週に2回」(15.4%)、「週に1回」(13.0%)の3つを合わせた『週1回以上運動した(計)』(62.8%)が6割を超えている。

一方、「全く行わなかった」(14.9%)が1割台半ばとなっている。

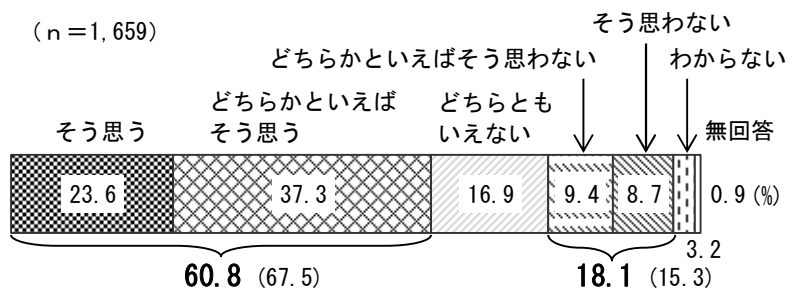


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(3)安心して受診できる医療体制

住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」(23.6%)と「どちらかといえばそう思う」(37.3%)を合わせた『そう思う(計)』(60.8%)が6割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(9.4%)と「そう思わない」(8.7%)を合わせた『そう思わない(計)』(18.1%)が約2割となっている。



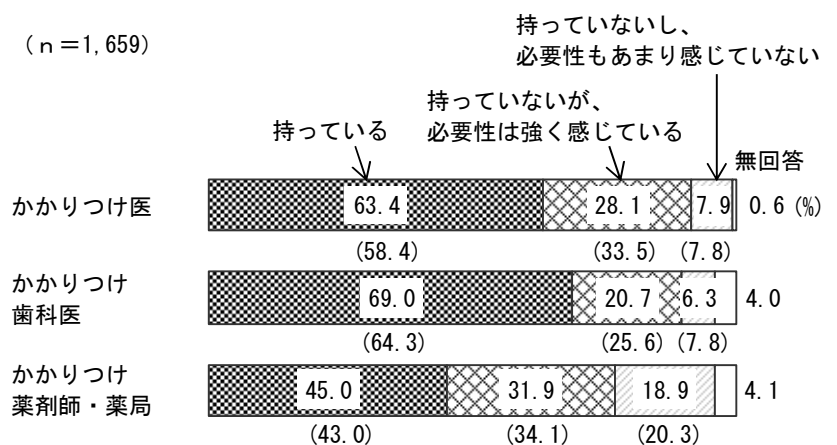
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(4)かかりつけ医の有無

かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は〈かかりつけ歯科医〉(69.0%)が約7割、〈かかりつけ医〉(63.4%)が6割を超え、〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(45.0%)が4割台半ばとなっている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(31.9%)が3割を超えている。

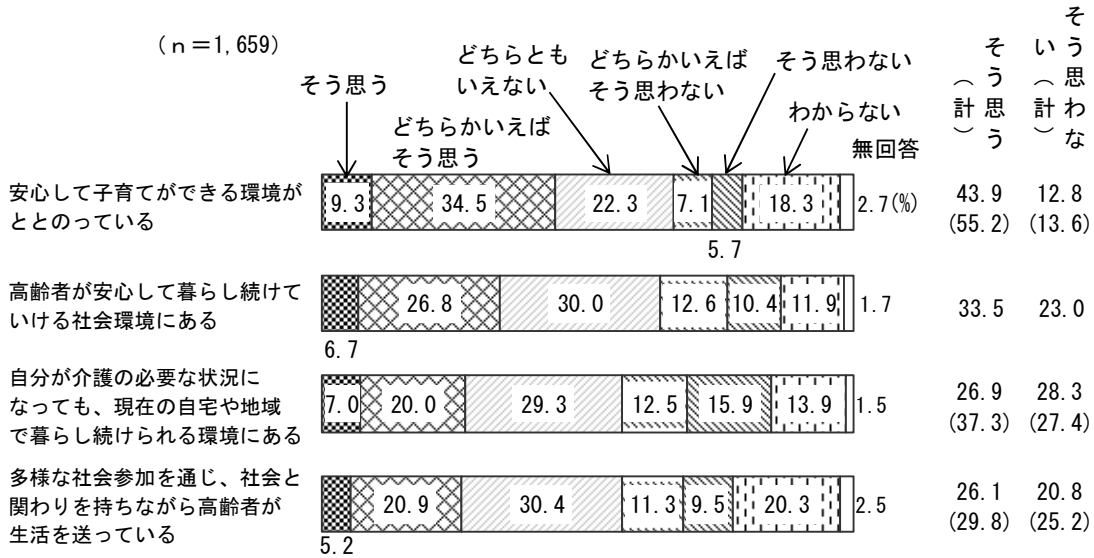
「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉(18.9%)が約2割となっている。



注) 下段の () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

4 福祉について

(1) 地域の福祉の状況について



注) 下段の () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

「高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」は前回調査では満足度を聞いていたため比較していない。

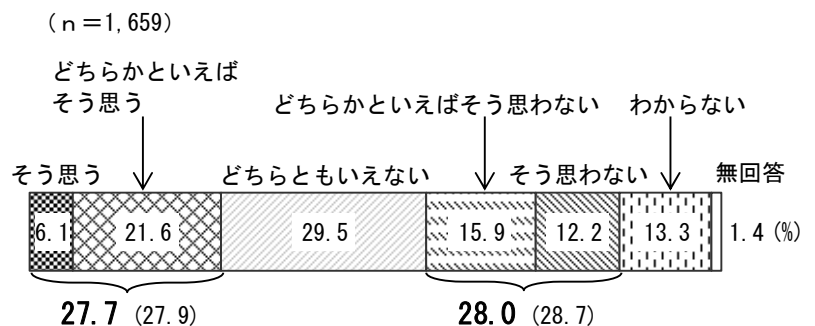
地域の福祉の状況に関する4項目について、お住まいの地域がどのような状況か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う(計)』が最も高いのは、「安心して子育てができる環境がととのっている」(43.9%)で4割台半ばとなっており、以下、「高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」(33.5%)が3割台半ば、「自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(26.9%)と「多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(26.1%)が2割台半ばで続く。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない(計)』が最も高いのは、「自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(28.3%)で約3割となっており、以下、「高齢者が安心して暮らし続けていける社会環境にある」(23.0%)が2割を超え、「多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(20.8%)が2割、「安心して子育てができる環境がととのっている」(12.8%)が1割を超えて続く。

(2) 安心して暮らせる地域社会づくりについて

地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められていると思うか聞いたところ、「そう思う」(6.1%)と「どちらかといえばそう思う」(21.6%)を合わせた『そう思う(計)』(27.7%)が約3割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(15.9%)と「そう思わない」(12.2%)を合わせた『そう思わない(計)』(28.0%)が約3割となっている。



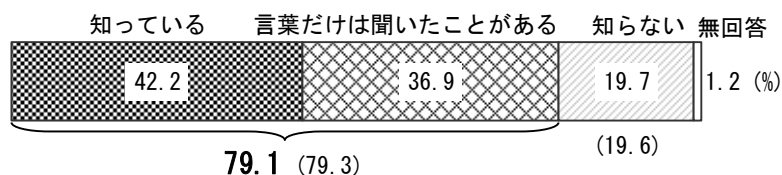
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(3)「共生社会」の認知度

「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」(42.2%)と「言葉だけは聞いたことがある」(36.9%)を合わせた『聞いたことがある(計)』(79.1%)が約8割となっている。

一方、「知らない」(19.7%)が約2割となっている。

(n=1,659)



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

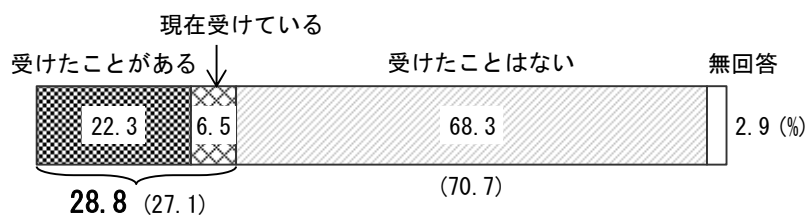
5 地域リハビリテーションについて

(1)リハビリテーションを受けた経験

自分又は家族が地域や病院、施設などで理学療法士、作業療法士又は言語聴覚士などの専門職による、リハビリテーションを受けたことがある、又は現在受けているか聞いたところ、「受けたことがある」(22.3%)と「現在受けている」(6.5%)を合わせた『経験がある(計)』(28.8%)が約3割となっている。

一方、「受けたことはない」(68.3%)が約7割となっている。

(n=1,659)



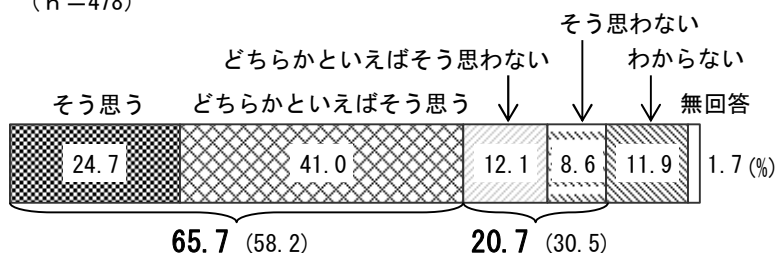
注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(2)適切なリハビリテーションの提供体制について

自分又は家族に対して、地域での介護予防から入院中・退院後の生活までそれぞれの段階で途切れのない適切なリハビリテーションが提供された、又は提供されていると思うか聞いたところ、「そう思う」(24.7%)と「どちらかといえばそう思う」(41.0%)を合わせた『そう思う(計)』(65.7%)が6割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(12.1%)と「そう思わない」(8.6%)を合わせた『そう思わない(計)』(20.7%)が2割となっている。

(n=478)

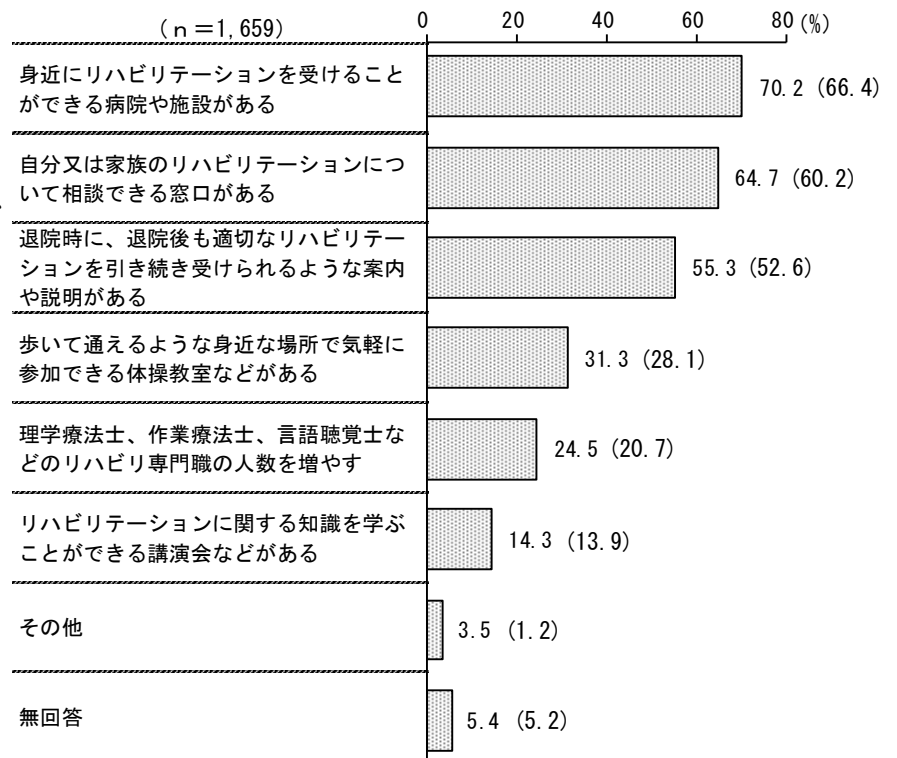


注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

(3)適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うこと

(複数回答:いくつでも)

適切なリハビリテーションが提供されるために重要だと思うことを聞いたところ、「身近にリハビリテーションを受けることができる病院や施設がある」(70.2%)が7割で最も高く、以下、「自分又は家族のリハビリテーションについて相談できる窓口がある」(64.7%)、「退院時に、退院後も適切なリハビリテーションを引き続き受けられるような案内や説明がある」(55.3%)、「歩いて通えるような身近な場所で気軽に参加できる体操教室などがある」(31.3%)が続く。



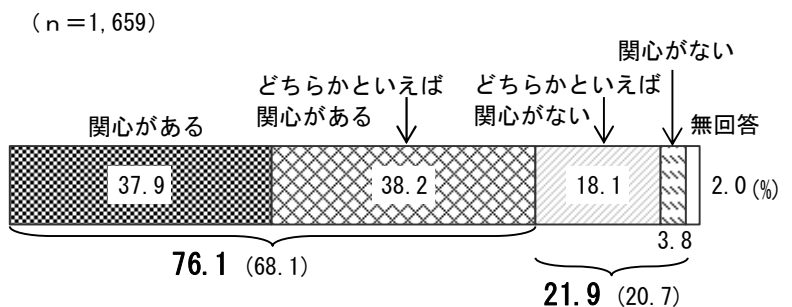
注) () 書きは、平成30年度の調査結果を示している。

6 食育について

(1)食育への関心度

食育への関心を聞いたところ、「関心がある」(37.9%)と「どちらかといえば関心がある」(38.2%)を合わせた『関心がある(計)』(76.1%)が7割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえば関心がない」(18.1%)と「関心がない」(3.8%)を合わせた『関心がない(計)』(21.9%)が2割を超えている。

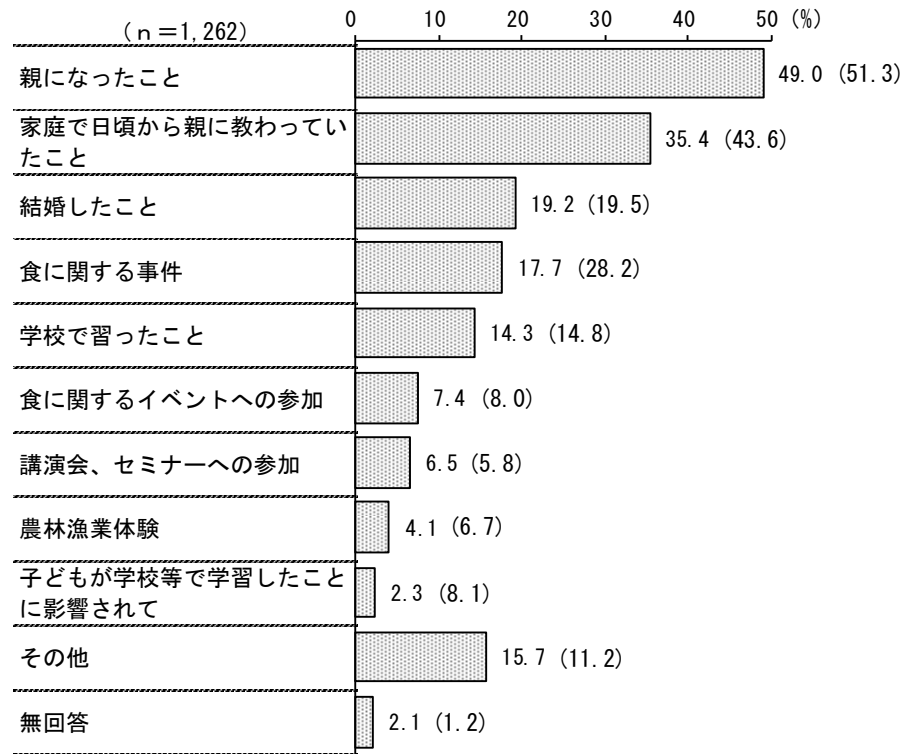


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(2)食育に関心を持ったきっかけ

(複数回答:いくつでも)

食育に関心があると回答した1,262人を対象に、関心を持ったきっかけを聞いたところ、「親になったこと」(49.0%)が約5割で最も高く、以下、「家庭で日頃から親に教わっていたこと」(35.4%)、「結婚したこと」(19.2%)、「食に関する事件」(17.7%)、「食に関する事件」(17.7%)が続く。

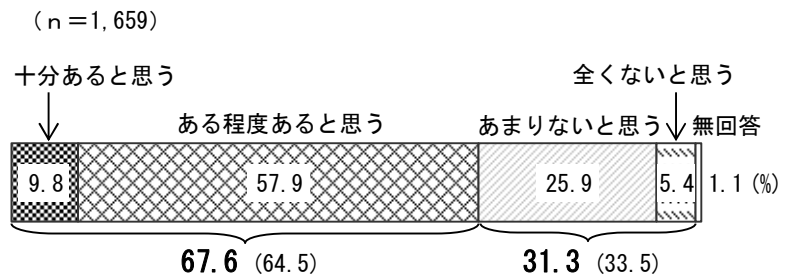


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(3)健康に悪影響を与えないための食品選択や調理の知識

健康に悪影響を与えないようにするため、どのような食品を選択すると良いかや、どのような調理が必要かについて知識があるか聞いたところ、「十分あると思う」(9.8%)と「ある程度あると思う」(57.9%)を合わせた『知識がある(計)』(67.6%)が約7割となっている。

一方、「あまりないと思う」(25.9%)と「全くないと思う」(5.4%)を合わせた『知識がない(計)』(31.3%)が3割を超えている。

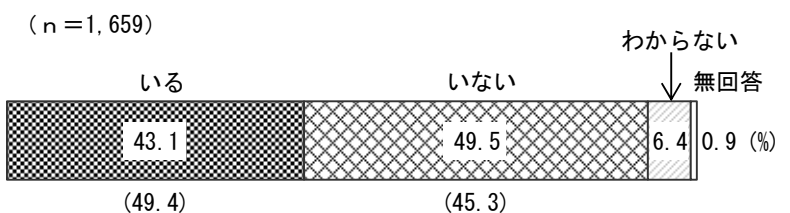


注) () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(4)農林漁業体験の参加状況

自分又は家族の中で、農林漁業に関する体験に参加したことがある人がいるか聞いたところ、「いる」(43.1%)が4割を超えている。

一方、「いない」(49.5%)が約5割となっている。



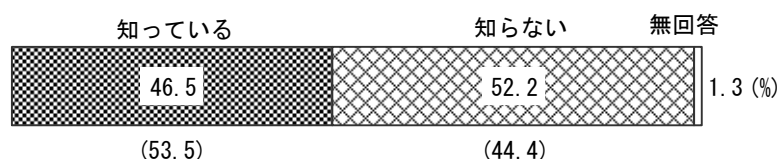
注) 下段の () 書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(5)食に関する文化の認知状況

地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理（郷土料理など）や作法（箸づかいなど）を知っているか聞いたところ、「知っている」（46.5%）が4割台半ばとなっている。

一方、「知らない」（52.2%）が5割を超えている。

(n=1,659)



注) 下段の（ ）書きは、令和元年度の調査結果を示している。

(6)食に関する文化の伝承

地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法を知っていると回答した771人を対象に、地域や次世代（子どもや孫を含む）に伝えているか聞いたところ、「伝えている」（67.8%）が約7割となっている。

一方、「伝えていない」（31.9%）が3割を超えている。

(n=771)



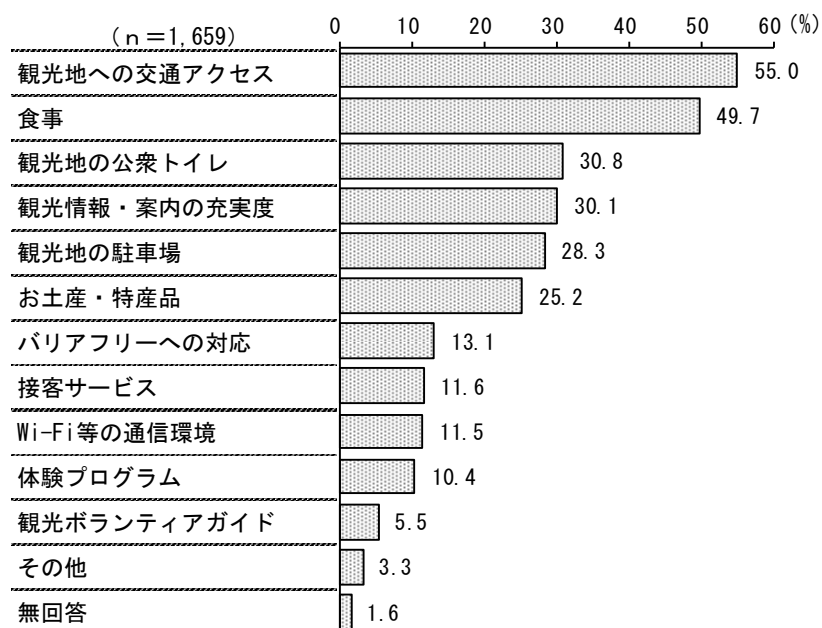
注) 下段の（ ）書きは、令和元年度の調査結果を示している。

7 観光について

(1)県内でより快適な旅行をするために充実してほしいこと

(複数回答:3つまで)

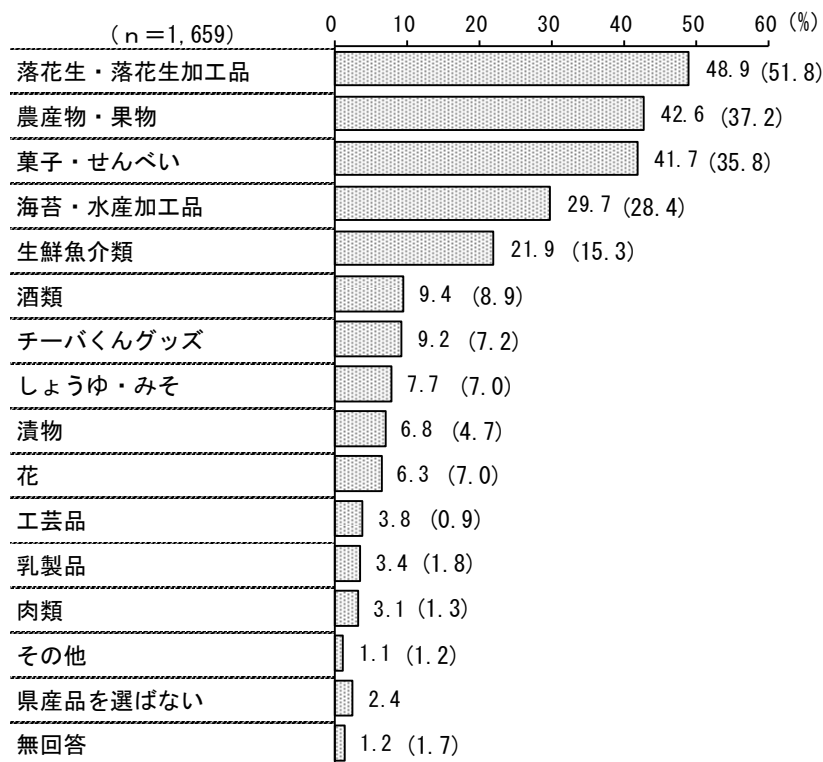
千葉県内を旅行する場合、より快適な旅行をするためには、特に何が充実してほしいか聞いたところ、「観光地への交通アクセス」（55.0%）が5割台半ばで最も高く、以下、「食事」（49.7%）、「観光地の公衆トイレ」（30.8%）、「観光情報・案内の充実度」（30.1%）が続く。



(2)お土産や贈答品として選ぶ県産品

(複数回答:3つまで)

県産品をお土産や贈答品とする場合、何を選ぶか3つまで選んでもらったところ、「落花生・落花生加工品」(48.9%)が約5割で最も高く、以下、「農産物・果物」(42.6%)、「菓子・せんべい」(41.7%)、「海苔・水産加工品」(29.7%)が続く。



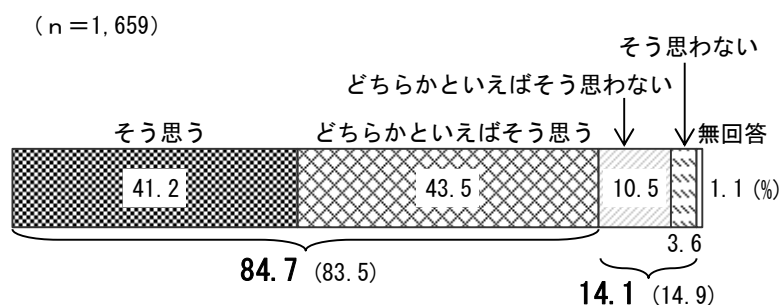
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

8 県の農林水産物について

(1)千葉県産農林水産物の購入意向

千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」(41.2%)と「どちらかといえばそう思う」(43.5%)を合わせた『そう思う(計)』(84.7%)が8割台半ばとなっている。

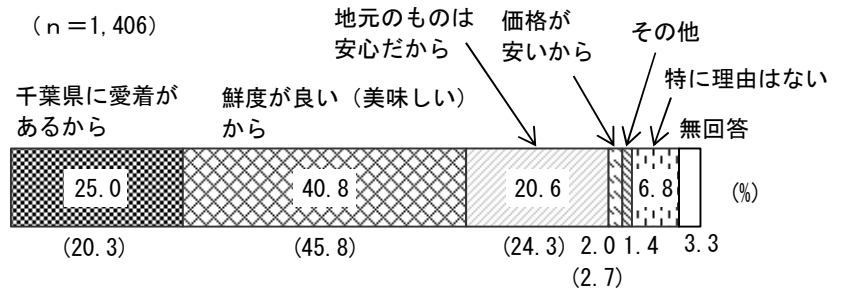
一方、「どちらかといえばそう思わない」(10.5%)と「そう思わない」(3.6%)を合わせた『そう思わない(計)』(14.1%)は1割台半ばとなっている。



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(1-1)千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

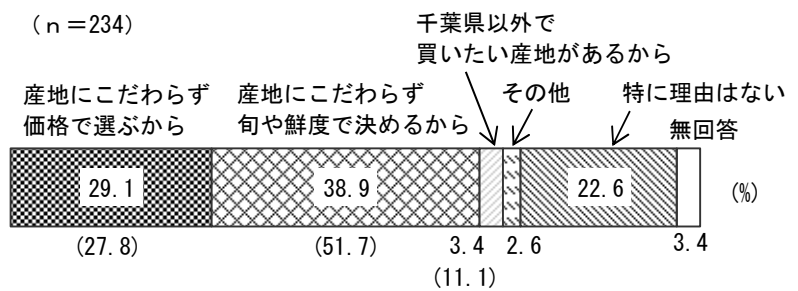
千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,406人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い(美味しい)から」(40.8%)が4割で最も高く、以下、「千葉県に愛着があるから」(25.0%)、「地元のもの安心だから」(20.6%)が続く。



注) 下段の () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(1-2)千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した234人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」(38.9%)が約4割で最も高く、以下、「産地にこだわらず価格で選ぶから」(29.1%)、「千葉県以外で買いたい産地があるから」(3.4%)が続く。

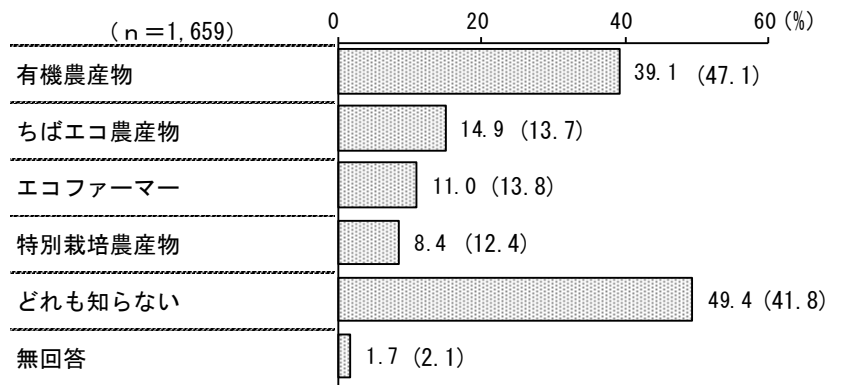


注) 下段の () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(2)環境にやさしい農産物や制度の認知度

(複数回答:いくつでも)

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者や農産物を認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」(39.1%)が約4割で最も高く、以下、「ちばエコ農産物」(14.9%)、「エコファーマー」(11.0%)、「特別栽培農産物」(8.4%)が続く。

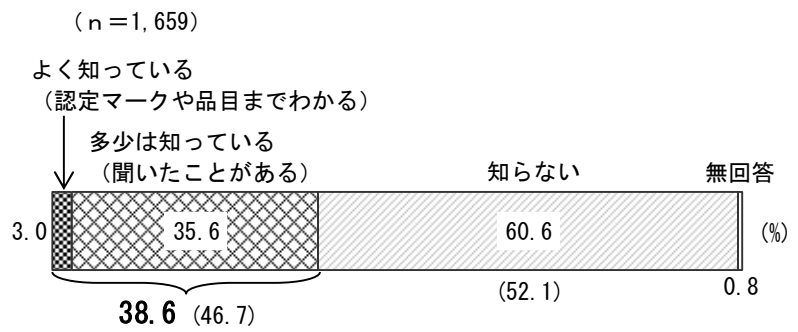


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(3)「千葉ブランド水産物」の認知度

「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている（認定マークや品目までわかる）」（3.0%）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（35.6%）を合わせた『知っている（計）』（38.6%）が約4割となっている。

一方、「知らない」（60.6%）が6割となっている。



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

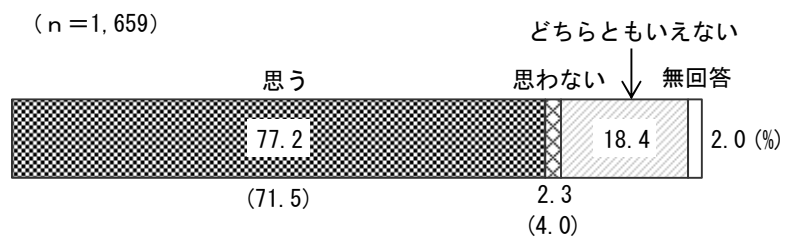
9 都市農業について

(1)県内都市農地の保全について

都市農地を県内に残していきたいと思うか聞いたところ、「思う」（77.2%）が約8割となっている。

一方、「思わない」（2.3%）は1割未満となっている。

また、「どちらともいえない」（18.4%）は約2割となっている。

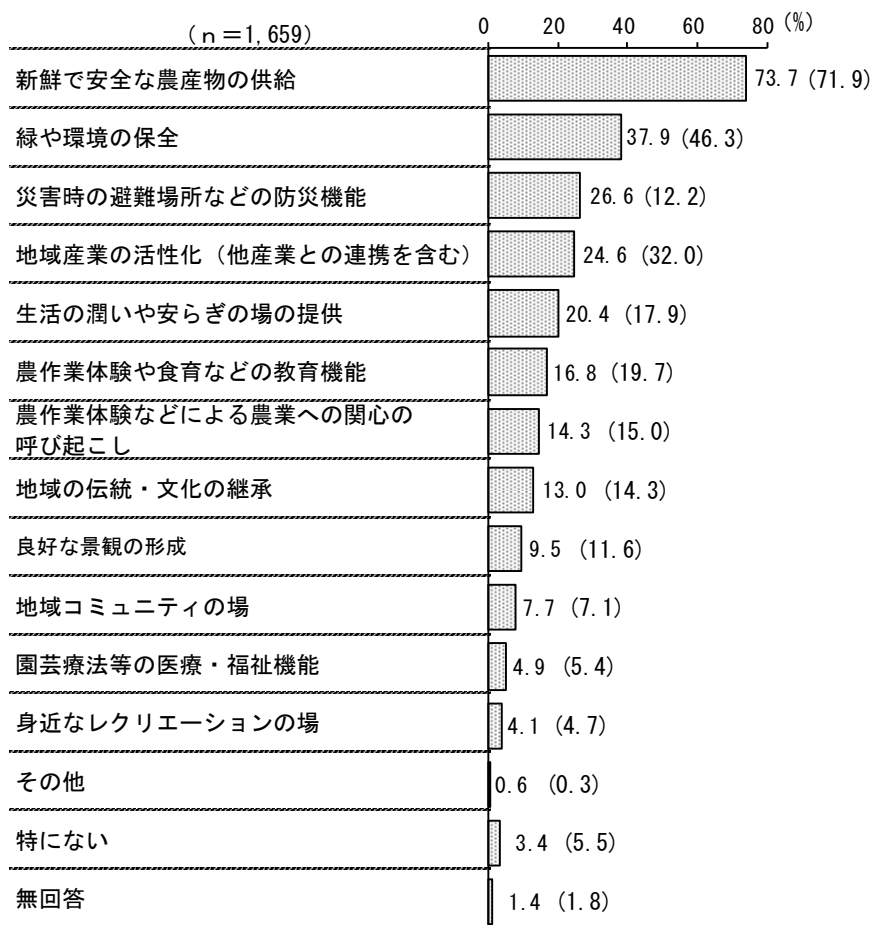


注) 下段の () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(2)千葉県都市農業・都市農地に期待する機能や役割

(複数回答:3つまで)

千葉県の都市農業・都市農地にどのような機能や役割を期待するか聞いたところ、「新鮮で安全な農産物の供給」(73.7%)が7割台半ばで最も高く、以下、「緑や環境の保全」(37.9%)、「災害時の避難場所などの防災機能」(26.6%)、「地域産業の活性化(他産業との連携を含む)」(24.6%)が続く。



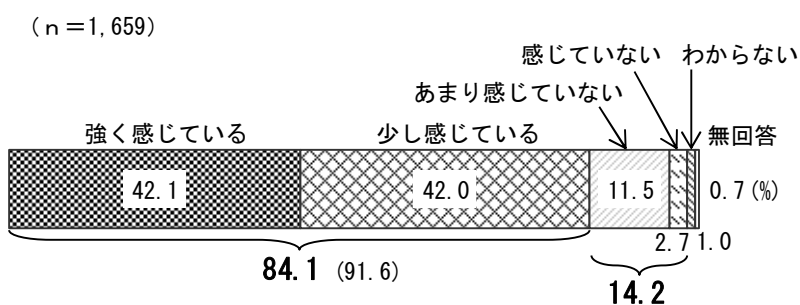
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

10 防災に関する取組について

(1)大地震や風水害への不安

大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(42.1%)と「少し感じている」(42.0%)を合わせた『感じている(計)』(84.1%)が8割台半ばとなっている。

一方、「あまり感じていない」(11.5%)と「感じていない」(2.7%)を合わせた『感じていない(計)』(14.2%)が1割台半ばとなっている。



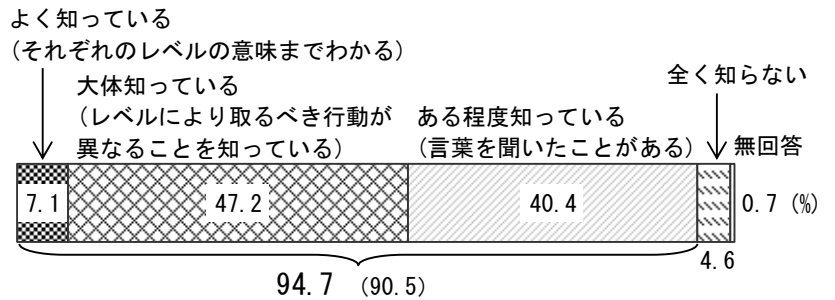
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。
前回調査では「ほとんど感じていない」は単独項目のため比較していない。

(2) 防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度

水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際に取るべき行動についてを知っているか聞いたところ、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（7.1%）と「大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（47.2%）、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（40.4%）の3つを合わせた『知っている（計）』（94.7%）が9割台半ばとなっている。

一方、「全く知らない」（4.6%）が1割未満となっている。

(n=1,659)



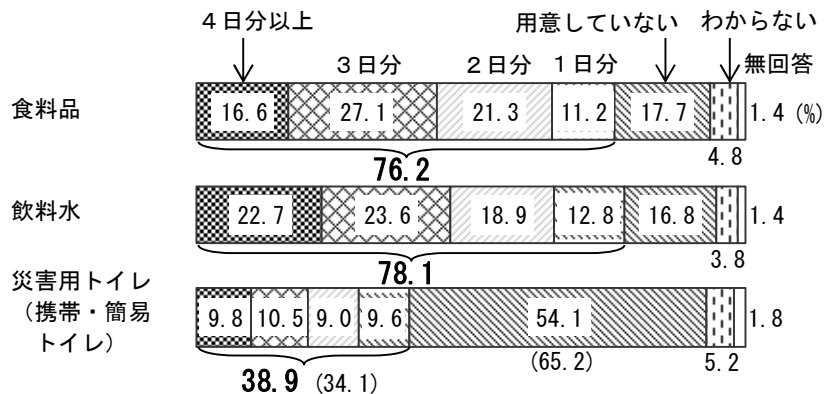
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(3) 飲料水や食料、災害用トイレ(簡易・携帯)の備蓄状況

災害時に利用できる食料品等を何日分用意しているか聞いたところ、「4日分以上」、「3日分」、「2日分」、「1日分」の4つを合わせた『備蓄している (計)』が最も高いのは、「飲料水」(78.1%)で約8割となっており、以下、「食料品」(76.2%)が7割台半ば、「災害用トイレ(携帯・簡易トイレ)」(38.9%)が約4割となっている。

一方、「用意していない」が最も高いのは、「災害用トイレ(携帯・簡易トイレ)」(54.1%)で5割台半ばとなっており、以下、「食料品」(17.7%)と「飲料水」(16.8%)が1割台半ばとなっている。

(n=1,659)



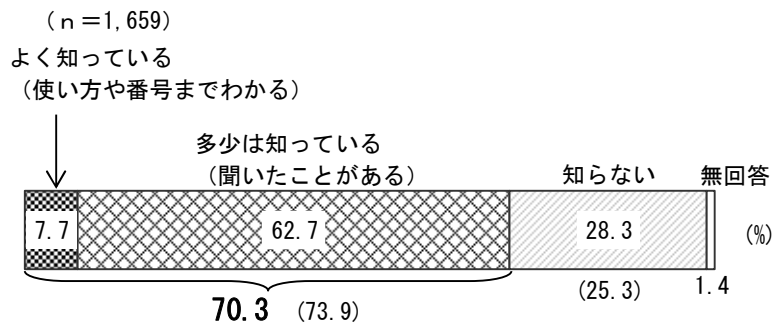
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

「食料品」と「飲料水」は前回調査ではまとめて備蓄状況を聞いていたため比較していない。

(4)災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「よく知っている（使い方や番号までわかる）」(7.7%)と「多少は知っている（聞いたことがある）」(62.7%)を合わせた『知っている（計）』(70.3%)が7割となっている。

一方、「知らない」(28.3%)が約3割となっている。

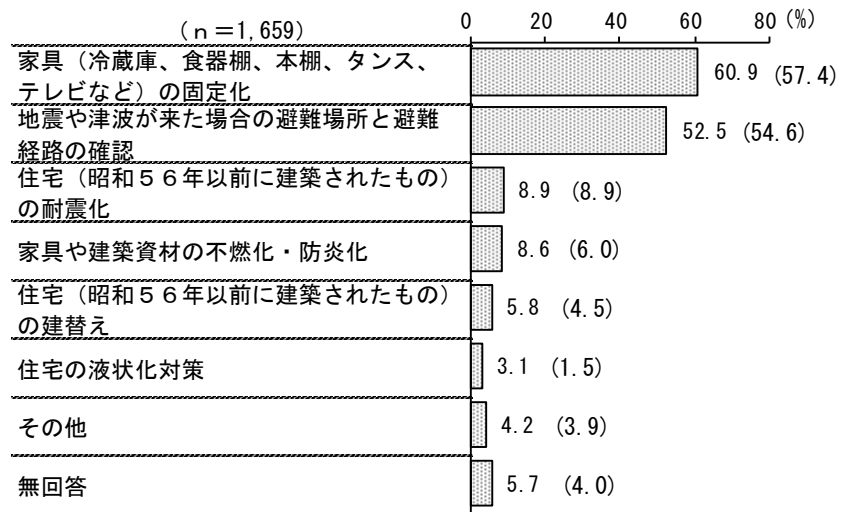


注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(5)地震の被害を防ぐための対策

(複数回答:いくつでも)

地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っている（行う予定）か聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（60.9%）が6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難場所と避難経路の確認」（52.5%）、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（8.9%）が続く。



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

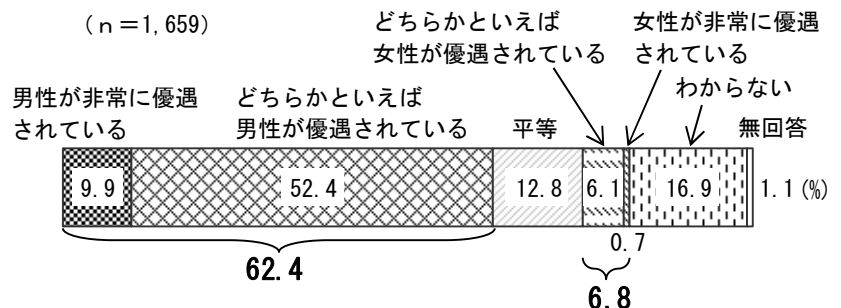
11 男女共同参画について

(1)社会全体での男女の地位の平等感

社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」（9.9%）と「どちらかといえば男性が優遇されている」（52.4%）を合わせた『男性が優遇されている（計）』(62.4%)が6割を超えている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」（6.1%）と「女性が非常に優遇されている」（0.7%）を合わせた『女性が優遇されている（計）』(6.8%)は1割未満となっている。

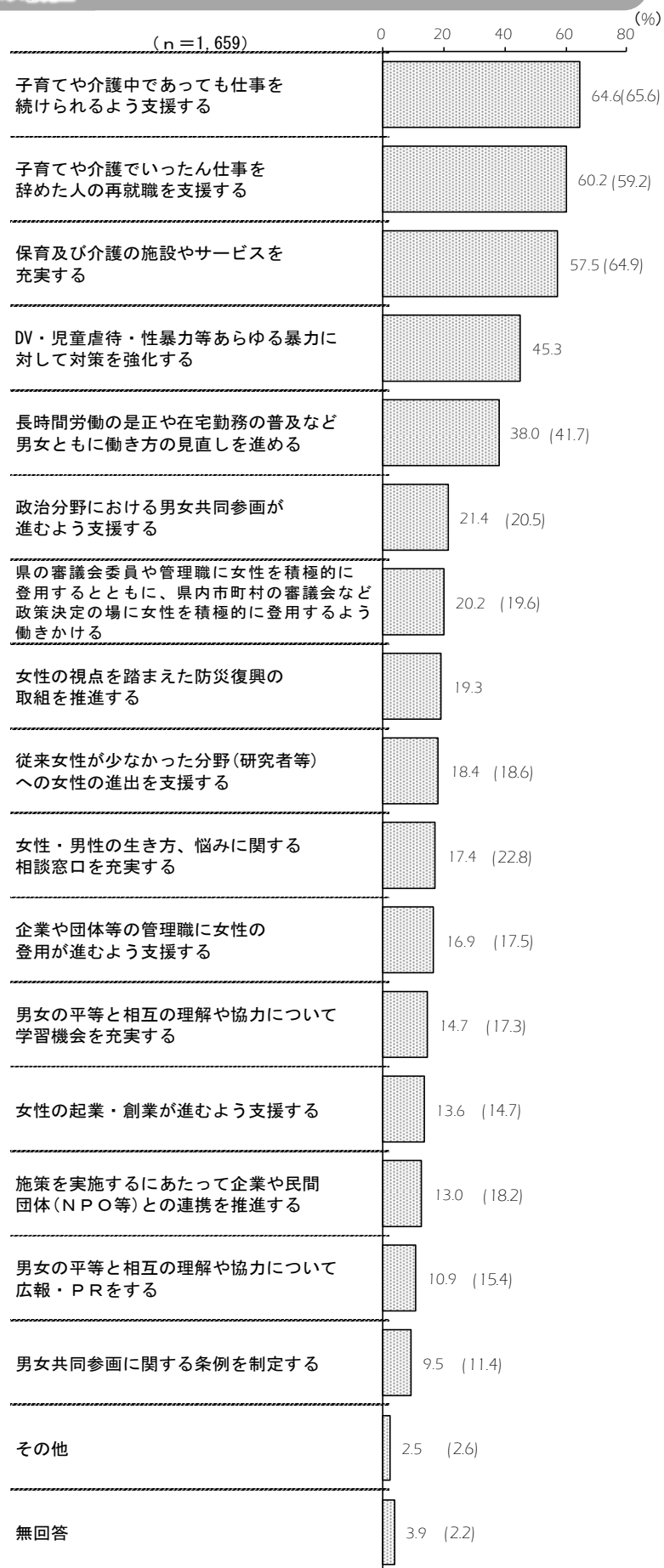
「平等」（12.8%）は1割を超えている。



(2)男女共同参画社会を実現するための取組

(複数回答:いくつでも)

男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」(64.6%)が6割台半ばで最も高く、以下、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(60.2%)、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」(57.5%)が続く。



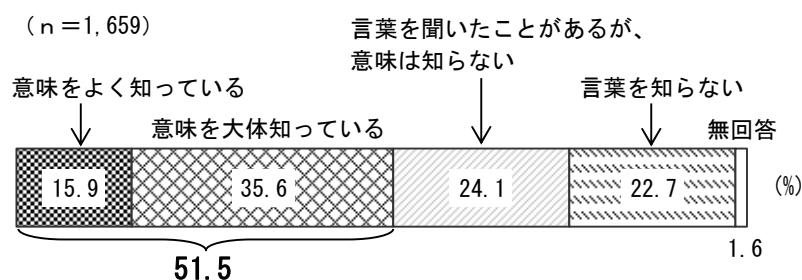
注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

12 SDGs等について

(1)SDGsの言葉の認知度

SDGsの言葉の意味を知っていたか聞いたところ、「意味をよく知っている」(15.9%)と「意味を大体知っている」(35.6%)を合わせた『意味を知っている(計)』(51.5%)が5割を超えている。

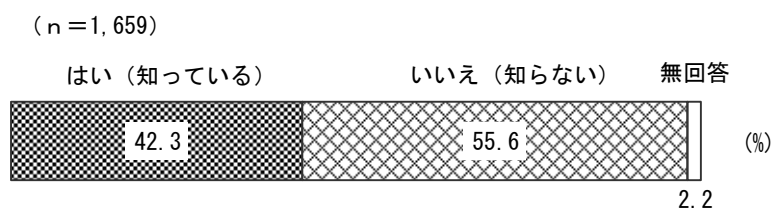
一方、「言葉を聞いたことがあるが、意味は知らない」(24.1%)が2割台半ば、「言葉を知らない」(22.7%)が2割を超えている。



(2)「ダイバーシティ」概念の認知度

「ダイバーシティ」という概念を知っていたか聞いたところ、「はい(知っている)」(42.3%)が4割を超えている。

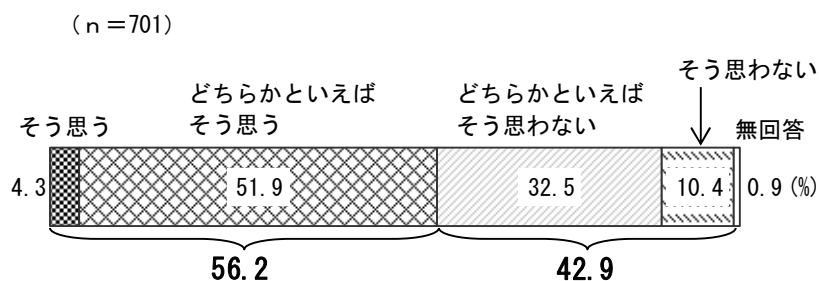
一方、「いいえ(知らない)」(55.6%)が5割台半ばとなっている。



(3)千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について

「ダイバーシティ」という概念を知っていると回答した701人を対象に千葉県で「ダイバーシティ社会」が実現できていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.3%)と「どちらかといえばそう思う」(51.9%)を合わせた『そう思う(計)』(56.2%)が5割台半ばとなっている。

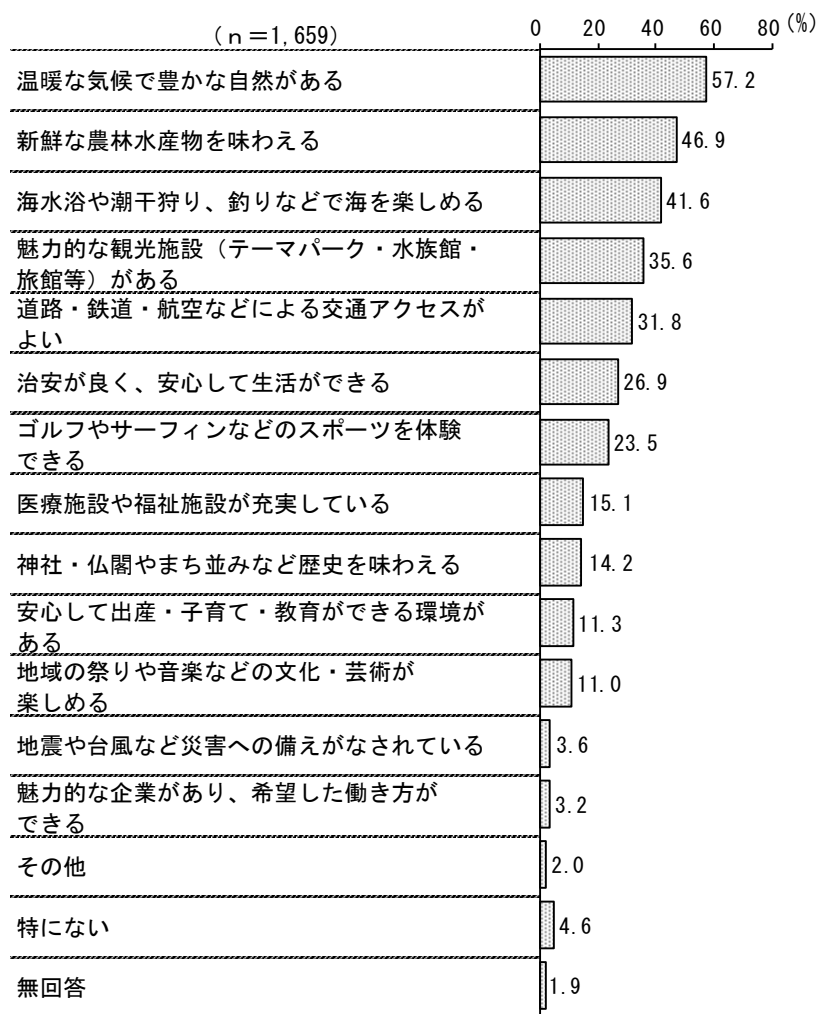
一方、「どちらかといえばそう思わない」(32.5%)と「そう思わない」(10.4%)を合わせた『そう思わない(計)』(42.9%)が4割を超えている。



(4)千葉県の魅力

(複数回答:いくつでも)

千葉県の魅力を聞いたところ、「温暖な気候で豊かな自然がある」(57.2%)が約6割で最も高く、以下、「新鮮な農林水産物を味わえる」(46.9%)、「海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しめる」(41.6%)、「魅力的な観光施設(テーマパーク・水族館・旅館等)がある」(35.6%)が続く。

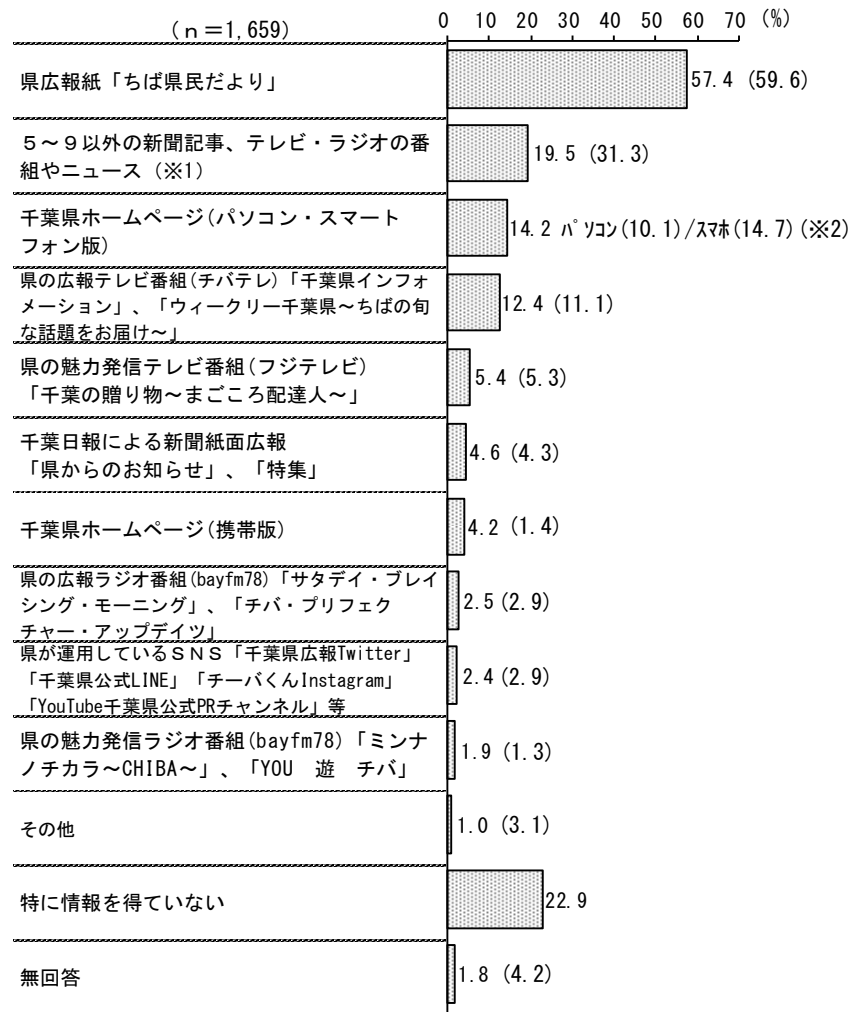


(1) 県政に関する情報を得る手段

(複数回答:いくつでも)

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(57.4%)が約6割で最も高く、以下、「5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(19.5%)、「千葉県ホームページ(パソコン・スマートフォン版)」(14.2%)が続く。

一方、「特に情報を得ていない」(22.9%)は2割を超えている。



注) () 書きは、令和2年度の調査結果を示している。

(※1) 「5～9以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、5～9とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』、『特集』」「県の広報テレビ番組(チバテレ)『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」「県の広報ラジオ番組(bayfm78)『サタデー・プレイング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデート』」「県の魅力発信テレビ番組(フジテレビ)『千葉の贈り物～まごころ配達人～』」「県の魅力発信ラジオ番組(bayfm78)『ミンナノチカラ～CHIBA～』『YOU 遊 チバ』」を指す。

(※2) 令和2年度では、「千葉県ホームページ(パソコン版)」と「千葉県ホームページ(スマートフォン版)」は別項目

自由回答(抜粋)

県や世論調査への意見を自由に記述していただいたところ、253人から延べ274件の回答が寄せられた。

記述いただいた内容は多岐に渡り、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。意見の多い項目に関して、一部抜粋してご意見を記載した。

◆県政全般に関する要望

- 気候温暖、明るくほがらかな県民性、働きやすい住環境、全ての人が平等に明るく健康的な街づくり推進を期待しています。(男性、75歳以上、佐倉市)

◆公共交通網(バス・鉄道)を整備する

- 運転免許証を返した後の日用品の買物の事を考えると不安になる。バス停まで歩いていく事を困難になるのであろうと心配になる。(女性、75歳以上、富里市)

◆次世代を担う子どもの育成支援を充実する

- 高校を卒業する年齢まで医療費の負担がかからない受給券を発行してもらいたい。(女性、40代、市原市)

◆道路を整備する

- 道路が狭く、歩道も狭くて、とても歩きにくい場所がたくさんありますので車や自転車に気を使わなくてもよい道路を願っています。(女性、75歳以上、船橋市)

◆シティプロモーションの推進と過疎化対策

- 千葉県は強みをアピールする戦略がヘタに思える。もっと本質を突いたほうがよいと思います。(男性、40代、成田市)

◆災害から県民を守る

- 災害時には県と各市町村が一体となって、じん速な対応をお願いします。(女性、75歳以上、柏市)

◆高齢者の福祉を充実する

- 高齢者の福祉の充実という点において物足りなさを感じています。(女性、70～74歳、千葉市)

◆交通事故から県民を守る

- 高齢者の運転する車にひかれそうになった事があります。車がなくてはならない地域だからこそ、交通安全により力を入れてほしいです。交通量の多い時間帯に警官が立つ等抑止力につながるような事を県と県警が協力して行ってほしい。(女性、40代、八千代市)

◆学校教育の充実

- 学校教育については、痛みのわかる様な、道徳教育を望む。社会規範を重点的に、自由とは何か、社会のルールを守っての自由を理解出来る様に。(女性、70～74歳、南房総市)

「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、72人から74件の回答が寄せられた。人数・件数には前問の「設問への意見」に記入された世論調査への意見も含む。これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

◆世論調査について

《世論調査自体への意見》

- 時間を費やして記載しているので、有効活用して欲しいと思います。(女性、50代、柏市)
- 市町村単位において、市政活動の違いがあるので、くらべるのは難しいのではないかと思います。(女性、40代、勝浦市)
- このアンケートが県政にどう生かされるのかイメージできませんでした。お金と時間をかけて実施された以上、今後に生かして頂きたいし意味がなかった物にはしてほしいと思いました。(女性、50代、船橋市)
- 市民の意見を聞いて下さりありがとうございます。(女性、40代、南房総市)
- これからも、例えばテーマを絞っての世論調査を行うなど、より具体的に、より深い調査を行なっていくことを希望します。(女性、60～64歳、船橋市)

《調査手法や謝礼への意見》

- (回答期限)日にちに余裕があった方が良い。年末はやめてほしい。(女性、70～74歳、銚子市)
- パソコンから回答しようと思ったが、非常に分かりにくい。担当者の方は、自分の親や子供がアクセス出来るかやってもらった方が良い。(男性、60～64歳、不明)
- (督促の)はがきが再度来たので思い出してアンケートを書いた。(督促)はがきは重要だと思った。(女性、30代、船橋市)
- インターネットを使う試みは良いと思います。ただ、選択肢が多いとスマートフォンの画面で見づらいです。(男性、20～29歳、市原市)
- チーバくんのボールペンありがとうございます。チーバくんを使っの県のPRはいいと思います。(女性、60～64歳、八千代市)

自由回答(抜粋)

今回のアンケート調査における「設問に関する意見」を自由に記述していただいたところ、190人から60件の回答が寄せられた。「県や世論調査への意見」に記述された意見のうち、「設問への意見」に該当するものもこちらに振り分けている。なお、回答者数より記述件数が少ないのは、その多くが「県や世論調査への意見」に該当するものであったため、そちらに振り分けたことによるものである。

- 今回のアンケートは、県という視点での調査ですが、市民の意識としては、「国」という視点と「市・町・村」住居地、視点には関心が向くが「県」の直接関与の意識は極めて少ない。このアンケートで回答にとまどう設問有り。(男性、70～74歳、浦安市)
- 子育てに対しての設問は多いものの、子育てをしていない共働き家庭に対する設問が少ないです。選択的に子供をもたない家庭があることも考えてほしいです。(女性、30代、成田市)
- 都合のいい質問だけ、もっと深堀した質問が必要。ただやっただに過ぎない。(男性、60～64歳、大網白里市)
- この質問では具体策にはつながりにくいと思われる。県民が望むものと乖離している。設問がまとはずれ。(男性、65～69歳、船橋市)
- 「○を3つまで」という設問が非常に悩みました。特に問46の「県政への要望」は36個ある中の3つだったので。本当はほとんどお願いしたい事ばかりでしたが、○をつけていないと要望していないようで。優先順位という事はわかっていますが、答えにくかったです。(女性、30代、八千代市)
- 県政に対して、あまり関心が無かった事を痛感しました。記入に時間を要しました。(女性、65～69歳、長生郡一宮町)
- 表面的な質問はあまり意味をなさないと思います。(男性、40代、成田市)
- 「問い」について説明があり、考え違えしないような配慮があり理解しやすかったです。(男性、40～49歳、市原市)
- アンケートについて：県の熱意を感じ、好感は持てますが、設問の多さが気になりました。誠実な回答を得たいのであれば、もう少し回答者の時間的拘束や負担の軽減を考えて頂きたいと思いました。(女性、50～59歳、柏市)